

## 10周年記念シンポジウムを終えて（ご報告）

県内外から200名を超える方々がご参加いただき、10周年にふさわしい大変意義深いシンポジウムを開催することができました。文部科学省はじめ各方面からお祝いを賜りました方々、および参加いただきました皆さんに厚くお礼申し上げます。苦しいときに一緒に考えてくださった方々の顔を拝見しますと、こみ上げてくるものがありました。当日はお一人一人にお礼申し上げるべきところ、失礼いたしましたことをお詫び申し上げます。

基調講演をいただきました佐藤友美子様の、「だれも近道はしていない、みんな悩みながら作った道」との言葉が心にしみました。わずか10年ですが、さまざまな模索の積み重ねでした。市民による「知の還流」を起こし地域の内側から元気にしようと志を掲げ、これを地域の産学官が共に支えていこうと言い続けてきた意味を再確認する言葉でした。坪田知己様の課題提起からは、世界規模で大きな課題を抱えているこの時代こそ、学び合っても社会も良くするインターネット市民塾が必要、その真価が問われるこれからの時代が大切。これまでの10年は助走期間と思えとの指摘を強く受け止めました。さらにトークセッションでは、木下晶様、柳原正年様、道本浩司様、高緑利江様、山本なつみ様、吉田敦也様のそれぞれより、これからのインターネット市民塾を考えるすばらしい示唆をいただきました。お話の要旨は別掲のとおりですが、記念シンポジウム終了後、事務局のメンバー一同でこれらのお話をもう一度振り返り、これからのインターネット市民塾をどのように育てていくべきか考えているところです。

### もっと多くが「知の還流」に参加するために

経済社会の構造的な問題が顕在化している現在、物とお金を回すだけでは社会の再生ができないことは、今回のシンポジウムでもさまざまに指摘されました。このような難しい時代にこそ、地域の一人一人が持つ経験やノウハウを回してプラスサムを起す「知の還流」が不可欠であり、そこにインターネット市民塾の大切な役割があると考えています。市民がテーマを持ち寄って講座を開講し、参加者から潜在的な力と意欲を引き出され、自己発見と参加者の持つ新たな知が結びついて「知の還流」を生み出すのがインターネット市民塾の特徴です。受講者から新たな市民講師が生まれ、働き盛りがチャレンジを始め、中には70歳を過ぎて会社を興すシニアも生まれています。しかしまだ地域の多くの市民が参加しているとは言えません。もっと多くの人たちが「知の還流」に加わってほしいと考えています。そのためには、講座のテーマやグループの活動の様子を伝え、きらきらと目を輝かせ、学ぶことの喜びと共に活動する楽しさをもっと知っていただくよう、努力が必要と考えています。

## 市民塾型の学習

インターネット市民塾では、少数・多グループの学び合いが特徴です。一般的な集合型学習では、一つのテーマに集まる参加者数を目安に評価しますが、インターネット市民塾では、テーマ・グループ（講座）の多様性と継続的なコミュニティ活動が大切と考えています。市民の生活、世代ごとの課題はますます多様化しています。その中であってインターネット市民塾は職場や家庭など生活のリアルな現場から学びに参加できることから、一人一人の身近な関心事や課題と学びが結びつきやすいと言えます。インターネットを通じてテーマに集まり学び合いながら、インターネットの先にある生活の現場でもテーマに共感した人のつながりと信頼関係が生まれ、共に良くしていこうとするコミュニティがたくさん育ってほしいと考えています。昨年更新した新しいシステムも大いに生かして「知の還流機能」を高めて行きたいと思います。

## みんなで創る学びのプラットフォーム

市民講師が作る学びの場、活動の場は、とてもバラエティに富んでいます。eラーニング（インターネットを通じた学習）のスタイルは、講義型、ワークショップ型、体験発表型など、この10年間に30種類以上を数えます。市民講師がほかの講座に参加、かわら版としてレポートするサポータ、利用者で作る「市民塾クラブ」など、みんなで作り参加するしくみです。地域の産学官をあげて、また多くの市民も運営に参加してすばらしいインターネット市民塾を育てて行こうではありませんか。

## 生涯学習が地域力を高める

生涯学習が「余暇や個人の教養のためのもの」と社会の認識はいつの間にか一般化されています。EU等では生涯学習の推進を国力の問題として捉えているのに比べ、日本では「個人の取り組み」に任せている面があります。一人一人が難しい社会を生き抜くためには、働き盛りも含めて一人でも多く「知の還流」に加わり、「Learning citizens」（学ぶ市民、考える市民）となる様、積極的に支援していくべきです。そして「知の還流」を大きくし、新しい発想によって地域の価値と「しごと」が次々と創造される「市民力」「地域力」につながるはずです。これは企業内の知識の伝播量とスピードを企業力とする新しい評価尺度（米国ケミカル会社の例）とも類似しています。市民が学び合って地域の課題を克服し元気にしていく「learning region」の形成は、生涯学習による地域活性化にほかなりません。

## 富山から全国へ

富山の取り組みが各地に広がり、記念シンポジウムにもたくさん駆けつけてくださいました。いま、基点となった富山と各地のインターネット市民塾の間に、地域を越えた「知の還流」が生まれ始めています。その流れを大切に、次世代のインターネット市民塾を考

える NPO 法人が昨年誕生しました。( NPO 法人地域学習プラットフォーム研究会)

各地の特色ある学習や活動をモデル化、共有・還流させることで、新しい時代に必要な学びと地域づくりを、全国のインターネット市民塾が力を合わせて進めていきます。

## おわりに

今回は事務局、特に女性陣が企画から運営の中心になって進めてきました。その事務局のスタッフは、市民講師の初めの一歩をお手伝いし、自らも市民講師を勤めているメンバーもいます。いつも裏方のように皆さんのお世話をしていますが、まさにスイッチがオンになる瞬間に立会い、チャレンジするいきいきとした市民と接することができる、もっともすばらしいところと言えます。志を持つ方の参加を大いに歓迎します。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

平成 21 年 2 月 4 日 富山インターネット市民塾推進協議会事務局